

はしがき

山内敏弘先生は1940年1月3日山形県にお生まれになり、本年2010年1月めでたく古稀を迎えられた。本書を献呈し、先生のご古稀をお祝いすることができ、心から喜ばしく思っている。

先生は1968年から獨協大学、1994年から一橋大学、2003年から龍谷大学に勤められ、本年3月に龍谷大学を退職される。2003年6月一橋法学2巻2号において山内敏弘教授退官記念号を献呈してから、7年が経過した。先生は平和主義を中心にして、違憲審査制、地方自治、情報公開、生命権などの研究によって、常に学界をリードしてこられた。この7年間に於いても平和主義に関する著書、論文を次々と発表され、立憲主義との関係に関する理論的な問題から有事法制や防衛省設置などの現実的問題に至るまで広く論じられてきた。その一つの集大成として、2008年に『立憲平和主義と有事法の展開』をまとめられた。また平和主義と関わりながら、改憲論の動向に常に注意を喚起され、批判的な観点から分析してこられた。さらにこれらの問題をアジアとの関係で論じられるのも先生のご研究の特徴であり、とくに韓国との関係に焦点を当ててこられた。その他憲法学を広く論じられ、学生や市民のために憲法論を分かりやすく説くことも忘れられなかった。

東京と京都のあいだの遠距離通勤は先生の体力にとって厳しいものであったと思われるが、龍谷大学の新生法科大学院の教育に全力を傾けてこられた。そのような状況の下でも、市民とともに憲法を考える姿勢を貫かれ、その姿勢は先生の学問にも教育にも反映されていると思われる。

本書は先生から直接の指導を受け、また職場で先生にお世話になり、あるいは学界において先生と学問的な親交の深い人々による論稿から成り立っている

る。多彩な執筆者は先生の学問的影響の広がりや強さを示している。執筆者から、先生の中心的なテーマである平和主義を意識しながら、しかし必ずしもそこに収まりきれない多様なご論稿を寄せていただいた。本書のタイトルが『立憲平和主義と憲法理論』とされたのは、そのためである。本書は便宜的に「平和主義の展望」と「立憲主義の展望」の二部構成になっている。

先生は現在の憲法状況をみながら、憲法学に対する強い意欲をおもちである。また市民から先生に期待するものも大きいと思われる。先生がご健康に気をつけられ、ますますご活躍されることを願っている。

本書の編集には浦田一郎、加藤一彦、阪口正二郎、只野雅人、松田浩が当たった。

出版事情が大変厳しいなかで、法律文化社には出版をお引き受けいただき、また編集部の小西英央氏に大変お世話になり、最後に厚く御礼申し上げます。

2010年3月

浦田 一郎
加藤 一彦
阪口正二郎
只野 雅人
松田 浩